

事業所名	グループホームえがおの家 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年10月24日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 高等学校非常勤講師 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター B:現職 介護支援専門員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、介護老人福祉施設(10年) B:現職 資格・経験
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・近くには、吉備津神社など由緒ある神社があり、歴史を感じさせられる場所に立地している。JR吉備津駅、国道からも近い場所にあり、比較的交通の便は良い。建物周辺には、のどかな田園風景が広がり、四季折々の変化を楽しむことができる。 ・木造平屋建てで、段差の少ない造りである。床下には調湿機能やマイナスイオン発生効果のある木炭を敷くなど、高齢者の健康に配慮した環境である。 ・施錠のない介護を目指しており、開放感がある。開設して約1年と、半年の2ユニットのグループホームであるが、入居者はすでに一つの家族のように、穏やかな表情で、生活を楽しんでいる。 ・開設当初から、地域の理解が得られており、代表者や職員も、地域に溶け込むため、積極的に交流を図る努力をしている。 ・看取りの介護について積極的に取り組む姿勢があり、明文化されている。状況の変化しやすい高齢者や入居者の家族にとって、安心感が与えられている。 ・職員からは、介護に対する熱心さが伝わってくる。気になる入居者があれば、職員は、時間を越えてみてあげていると、代表者から説明を受けた。入居者に対する言葉遣いは、非常に丁寧で、高齢者を尊重した態度で接する姿は、好感が持てる。常に寄り添い、入居者一人ひとりの状況に合わせた介護の姿が、印象的であった。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画は、非常に具体的である。しかし、項目が多すぎて、誰に何を実行したら良いのかが、把握しにくいように感じた。ニーズの優先順位を決め、的を絞った計画を立案し、職員間で共有が図れるように工夫すると、さらに良いと感じた。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりが、自由で快適な、笑顔に満ちた生活が送れるよう、家庭的な雰囲気大切にしている。 ・入居者の気持ちになって接したいと考え、一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしている。 ・入居者を尊重した態度で接することができるよう、言葉遣いや態度等について、振り返る機会を設けている。 ・地域との交流を大切にしたいと考えている。具体的には、近隣の老人福祉施設やデイサービスとの交流を図ったり、喫茶店等、地域の店に入居者が出向く機会を作りたいと考えている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が暮らしていて生活できるような空間づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、入居者に話しかける時は、そばに行き、肩に手を添えるなど、スキンシップを図っていた。 ・入居者に対するねぎらいの言葉かけが多く、入居者が、存在感・価値観を感じることができるような支援の仕方を心がけていた。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人ですることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの趣味を生かした生活ができるように支援している。自宅から盆栽を持ち込んで、引き続き手入れを楽しんでいる方、得意の絵を共用空間に飾っている方、編み物を楽しんでいる方、得意の習字をカレンダーに生かしている方など、経験を十分に生かされている。 ・フェイスシートで生活歴を把握し、入居者が役割を發揮できるよう支援している。役所勤めの経験のある方には、訪問当日、ゲーム終了時に挨拶して頂いていた。 ・各居室への入退室の際には、入居者にきちんと声をかけ、各居室のドアもきちんと閉められ、プライバシーの保護に配慮していた。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日々から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と12月には、入居者も参加し、実際に出火場所を想定した避難訓練を実施した。訓練後には、評価・反省をして訓練が生かされるようにしている。 ・事故が発生した時には、事故報告書を作成し、職員間で話し合いをし、再発の防止を図っている。今後は、ヒヤリハットについても情報の収集・分析をし、事故の発生を予防する取り組みを期待する。 ・各行事の計画書がきちんと作成されていた。できれば、反省・評価をして、次に生かすようにすればさらに良いと考える。 ・サービスの質の向上を図るために、職員の採用時とその後の継続研修を行っているが、まだ機会は少ない。今後はホーム内外での研修の機会をさらに増やすことを期待する。 		